



国民の森林・国有林

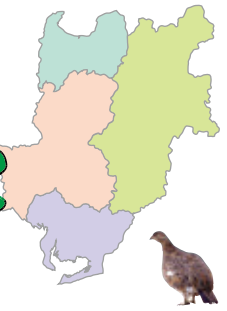
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



7月号

メールマガジン登録で本誌記事や観光情報のデジタル版を毎月お送りします。
登録サイト：<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



9ページに目に掲載しているよ！（中部森林管理局 保全課）

主な項目	○ 本局のトピックス(令和2年度 中部森林管理局インターンシップ(夏期)がはじまります。) …… P1
	○ 各地からのたより(アツモリソウの人工授粉を実施～ほか) …… P2
	○ 森林のお仕事紹介コーナー
	・「森林官からの便り」(東信森林管理署 軽井沢森林事務所) …… P3
	・「森林・林業界からの便り」(有限会社 つけち創工社) …… P4
	☆ シリーズ「お役に立ちます 国有林」第3回
	・Google Earthを活用した民国森林情報の共有(木曾森林管理署) …… P5
	☆ 連載「木曾式伐木運材図会」の解説(第3回) …… P6
	○ シリーズ「ご当地自慢」(飛騨森林管理署「飛騨の広葉樹」) …… P7
	○ 各地からの花だより …… P8
○ 新コーナー「ちょっと一息!」 中部の森林7つのいたずらを探せ! …… P9	
○ 国有林モニターのご紹介/編集長だより …… P10	

〈本局のトピックス〉

令和二年度 中部森林管理局

インターンシップ(夏期)が

はじまります

【総務課】

中部森林管理局では、学生が職場の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的に毎年二回程度インターンシップの受入れを行っています。

受入れの対象者は、大学（短期大学含む）または、大学院の学生のうち、学生が所属する大学から推薦された学生となっています。

今回は、七月から八月にかけて、七署で十名の学生を受入れて行います。（受入れ状況は、表のとおり）

各署においては、林野行政全般に関する座学や現場での森林調査や工事現場などの業務体験を通じて、インターンシップ担当者の仕事に対する熱意が、実習生に伝わり、就職活動に結び付くことができようという期待しているところです。



立木の大きさを計測

昨年度の実習体験の様子

令和2年度 インターンシップ(夏期) 受入一覧表		
受入署	就業体験期間	大学名
富山森林管理署	8/24~8/28	岐阜大学
北信森林管理署	8/24~8/28	筑波大学
中信森林管理署	7/13~7/17	筑波大学
南信森林管理署	8/24~8/28	信州大学(院)
南信森林管理署	8/24~8/28	同志社大学
木曾森林管理署	8/4~8/7	東京農工大学
木曾森林管理署	8/4~8/7	筑波大学
飛騨森林管理署	8/24~8/28	筑波大学
東濃森林管理署	8/24~8/28	名古屋大学
東濃森林管理署	8/24~8/28	千葉大学(院)



境界標の確認作業



除伐作業



製品生産事業の見学

実習体験者の感想

○森林管理署の業務の幅広さを実感した。

○実習前まで頭の中だけで理解していたことを目で見て理解することができました。

○様々な業務体験をし、林業関連の仕事にさらに興味関心がわいたので、これからもっと林業に関する知識を身につけ就職活動に取り組んでいきたい。

などの感想のほか、今後の就職活動への取組の糧となったり、大学の講義などで疑問に感じていたことが実習により理解できたりとインターンシップの目的を実感されました。



熊対策のテープ巻き作業

〈各地からのたより〉

アツモリソウの人工授粉を実施

【中信森林管理署】

六月十七日、美ヶ原高原うつくしがはらにおいて、絶滅危惧種であるアツモリソウの人工授粉作業を実施しました。

この活動は、中部森林管理局と長野県で締結している「生物多様性保全の推進に関する基本協定」等に基づき、毎年六月の開花時期に美ヶ原高原の自生地において、上伊那農業高校の生命探究科の生徒が人工授粉作業を行うもので、種子が形成された場合は、学校で無菌増殖し、発芽した芽を自生地に移植することとしており、今後の増殖成果に期待が寄せられています。



上伊那農業高校の生徒による人工授粉の様子

アツモリソウは、種子に栄養を貯蔵していないためラン菌と呼ばれる菌根菌きんこんきんと共生しなければ野外環境での発芽が難しく、自然状態では種子から開花に至るまで約十年間という長い年月を要すると言われています。

また、ラン科植物の中でも花が大きく美しいため、「野生ランの王者」と言われており、山野草ブームによる盗掘や、近年におけるニホンジカの食害、踏圧により個体数が激減していますが、電気柵の設置や保護活動により個体数は少しずつ回復しています。

今後、このプロジェクトを応援し、美ヶ原高原に美しく咲き誇るアツモリソウの群落が回復することを切に願って、継続的に活動していきたいと考えています。



自生するアツモリソウ

”岐阜の宝”を守れ！ ミズバショウ群生地に 電気柵を設置

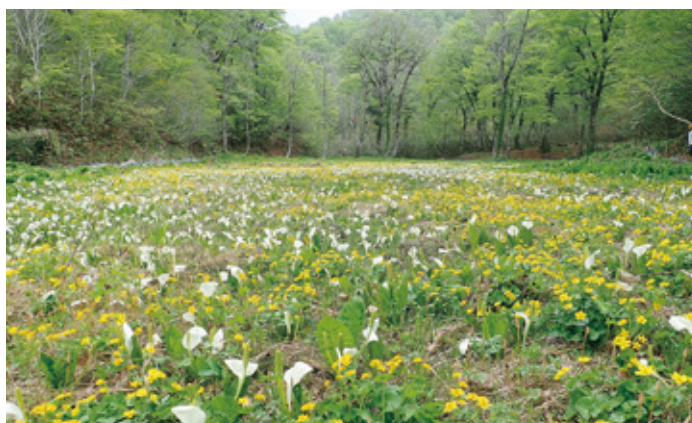
【飛騨森林管理署】

五月二十五日、天生国あまのくに有林内にあるミズバショウ植物群生地ひの（飛騨市河合町天生）にて、電気柵の設置を天生県立自然公園協議会会員等と実施しました。

同地域は、県立自然公園に指定されており、天生峠を中心に貴重な高山植物が咲き乱れる湿原のほか、広大なブナの原生林など雄大で深淵な自然を体験できる場所が、近年、シカ、イノシシなどにミズバショウや高山植物の食害が見受けられたため、平成二十七年から保全活動に取り組みんでいます。



電気柵の設置作業の様子



ミズバショウとリュウキンカの群落

当日は、二箇所のミズバショウ群生地に柵を設置する作業に十五名が参加し手慣れた作業で四百メートル設置しました。こうした取組により食害による被害は、年々少なくなっています。

また、七月二十七日のオープンに向けて、入山時の注意看板やベンチ等の設置なども行いました。今後も岐阜県が全国に誇るふるさと自慢「岐阜の宝」を守る活動に地域と連携しながら保全活動を推進していきたいと思えます。



新緑の浅間山

【東信森林管理署 軽井沢森林事務所】
首席森林官 武田 康
軽井沢森林事務所は、長野県東部千曲川の上流に位置し、浅間山南麓を主体に軽井沢町・御代田町に所在する国有林（八、九〇九ヘクタール）を管理しています。



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。

日本百名山にも名を連ねる浅間山は当地のシンボルであり、長野県歌「信濃の国」に歌われている活火山です。管内のほとんどが浅間山麓に位置しており、首都圏からのアクセスも良く、多面的に活用されていることから、その事例をいくつか紹介します。



軽井沢野鳥の森の住人（ムササビ）

『災害対策』

浅間山は過去に大きな災害を引き起こし、昨年引き続き本年も六月に噴火警戒レベルが二に引き上げられるなど活発に活動していることから、林野庁と国交省が連携し、大規模な治山谷止工及び砂防堰堤を施工中です。

『保護林など維持保存』

御代田町の天然アカマツ林「浅間山霧上の松希少個体群保護林」、

日本最古のカラマツ人工林「浅間山カラマツ希少個体群保護林」等が所在しており、環境省等とも連携し、その保護管理に努めています。

『林産物の持続的・計画的な供給』

浅間山麓は広大なカラマツ林に覆われ木材資源が豊富であり、今年度も一七、三三〇立方メートルを生産する予定など、木材の一大産地でもあります。

『分収林制度による森づくり』

管内には多数の分収育林及び分収造林があり、昭和六十一年に全国第一号としてスタートした「軽井沢ふれあいの郷」の別荘地が現在も利用されており、今年度末には当初の契約期間の満了を迎えます。

『国有林野の活用』

管内に多くの別荘地や水源地を抱えていることから、約二百七十件の貸付を行っており、その管理も森林官の重要な業務の一つです。

『森林環境教育の推進』

森林環境教育を支援するための実践フィールドとして、「中野区

遊々の森」、「軽井沢ふれあいの森」、「練馬区遊々の森」、「ソフィアの森」等を設定しています。また、NPO法人との森林づくり活動の支援として、「軽井沢野鳥の森」、「松ぼっくりの森」を設定し、自然観察や下刈り等の活動にも連携して取り組んでいます。



貸付地の危険木調査を行っている筆者

■ 未来の担い手へのメッセージ

森林官は多岐にわたる業務を担っています。森林管理署の地域における顔であり、担う責任も大きいですが、その分やりがいを感じると思います。興味がある方には、職場体験をお勧めします。

もり
《森林のお仕事紹介コーナー（森林・林業）》

令和2年7月

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。



有限会社 つけち創工社

原 茂樹

(二〇一九年入社)



筆者

■事業の概要

請負事業・森林環境保全整備事業
(保育間伐活用型外
加子母裏木曾3)

発注者・東濃森林管理署

作業現場の加子母裏木曾国有林内には国有林におけるレクリエーションの森として「付知峡自然休養林」もあり、たくさんの方が森

林や渓谷を楽しみに訪れる場所になつています。

作業内容は間伐材を二、六〇〇立方メートル生産する予定で、四月中旬から作業に入り、スイングヤーダなど高性能林業機械を使い作業を進めています。急傾斜地でもあり、安全作業に向け、作業計画書の作成、日々のRKY（リスクアセスメント危険予防）などに取り組みとともに、自然休養林近くでの作業です。入り込み者への注意喚起にも気をつけています。



造材現場の様子（後ろは、スイングヤーダ）

■現場での役割、魅力

私が入社したのは一年前の五月二十日、指導を受けながら間伐作業に従事。

その後、地拵作業、下刈作業に従事しましたが、地拵作業や下刈作業では作業のきつさと暑さで頭がぼーっとなることも。先輩から「日陰で休んでこい」と言われ、いつも近くで見守ってもらっていたことが懐かしいです。

一年経過して林業マンとしてはまだまだ未熟ですが、今年には緑の雇用研修にも参加させていただき予定なので、広く林業の仲間とも交流を深めていきたいと思っています。

■森林・林業の世界に入ったきっかけ

私は水処理の配管設計などの仕事に携わっていましたが、自然、特に溪流が好きで溪流釣りによく出かけ、こんな自然の中で仕事ができたらいいなと思います、岐阜県の「もりのジョブステーションぎふ」のHPを見たのがきっかけで、ヘリ集材の写真に感動して今

の会社に入社させていただきました。

■未来の担い手へのメッセージ

「林業をやりたい」と思っている林業に就職した人は少ないのではないかと思います。自然の中で働きたいと思えば探したらそこに林業があった。まずはそこからかなと。未経験でも研修制度が充実していますよ。

一年働いてみて、大変なことも多かったですが、自然の中で働くことは大変な面を差し引いても余りある魅力があり、他の仕事では味わえない爽快感がありました。林業という仕事を通して、一緒に楽しく働きましょう。



スイングヤーダの先柱へワイヤー運搬時の様子

中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれら事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



シリーズ

お役に立ちます 国有林

民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ

Google Earthを活用した民国森林情報の共有

1. ねらい

民有林と国有林の事業連携を検討するため、操作が簡単で一般的にも入手しやすいGoogle Earthを活用して情報を統合・共有しました。

2. 概要

森林や路網、事業計画の情報を、民有林と国有林で同じ操作で扱えるように共有できると、事業連携を効率的に検討することができます。しかし、自治体や国有林では、それぞれ異なるGIS（地理情報システム）を利用している上、操作に知識と慣れが必要です。

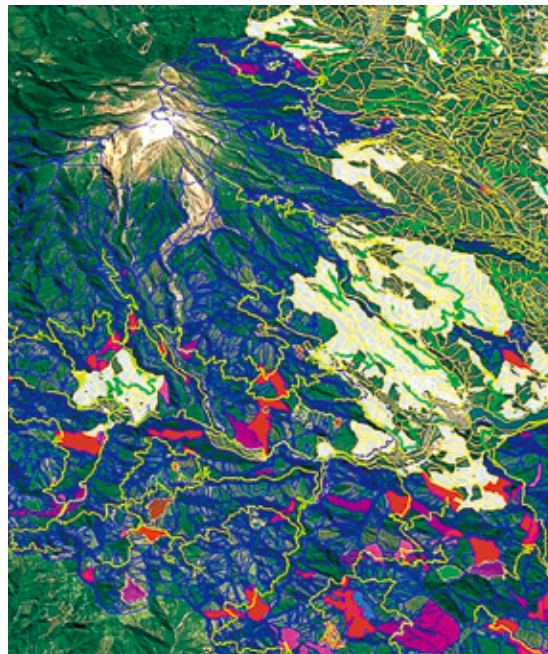
このため、GISのように多機能ではなくても情報の確認が容易にできるように、GISファイル形式（シェープファイル）の森林情報、路網情報、事業計画の情報をGoogle Earthに統合するため手順書を作成するとともに、木曽谷流域の情報を統合して、関係者の間で共有しました。

3. 成果

Google Earthは、世界中の衛星写真をマウスだけで操作して地球儀を回すように見ることができ、地形も立体で表示されます。

統合した情報を使って、民有林の事業では、行政界を越えた路網の連結を検討し、森林経営計画の策定に活用しています。

今後は、森林所有者への説明を行う場面でも、活用ができそうです。



Google Earthで表示した森林情報

4. 問い合わせ先

木曽森林管理署 電話 0264-52-2083



国民の森林・国有林

連載

「木曾式伐木運材図会」の解説 (第三回)

中部森林管理局技術普及課

井上

日呂登

今回は「木曾式伐木運材図会」の上巻より、山で仕事に取りかかり、木を伐採するまでの場面を紹介いたします。

「祭山神圖」について

昔の山で働く人達は信心深く、小屋を建て、山仕事に取りかかる前に山の神を祭り、作業の安全を祈りました。

また、毎月日を定めて「山の神」の日として、仕事を休み、酒が一杯支給され、山の神を祭りました。山で怪我をすることは山の神を汚



「祭山神圖」より山の神を祭り安全を祈る杣夫

「元伐之圖」について

これは、「木曾式伐木運材図会」を代表する木を伐採する場面の絵です。昔の木曾では盗伐を防ぐ為に音が小さい鋸での作業を禁じ、斧（昔は「ヨキ」と呼びました）でのみ伐採させていたと言われます。

右側の絵の伐り方は「三ツ紐伐り」(三ツ伐り、三ツ緒伐り、台伐り、鼎伐り、などとも)と呼ばれる太い木・貴重な木を伐る伝統的な技法です。木の幹に三方向から斧を入れ、三本のツルを残して穴を空け、最後に倒す方向の反対側から斧を入れて伐倒します。手間はかかりますが、木を傷めない安全な手法とされます。現在でも伊勢神宮の式年遷宮の御神木を伐採する行事「御杣始祭」などでは、斧を用いたこの伐り方が行われています。



「元伐之圖」より斧での伐採

現代のチェーンソーでの伐採は、左の絵の方法に近く、伐倒方向に「受け口」と呼ばれる切れ込みを作ってから、反対方向から「追い口」と呼ばれる切れ目を入れて伐倒しています。



三ツ紐伐りでヒノキに空けられた空洞

今回は、「株焼之圖」「墨打之圖」について解説させていただきます。

中部森林管理局では、この「図会」を保管し、それぞれの場面を切り取ったものを画像としてホームページで紹介しています。

サイトは、QRコードを読み込んでください。

なお、木曾式伐木運材図会は、一般公開は行っていません。





土場に積まれた市有林の広葉樹

飛騨市は、面積の九三%が森林で、その七割を広葉樹が占めており、春の新緑、秋の紅葉など、四季を通じて楽しむことができます。

しかしながら現在、市内で伐採される広葉樹のほとんどが、チツ



社の出資により「(株)飛騨の森でクマは踊る」を設立しました。また、平成二十九年度には飛騨地域の木工作家による「ひだ木(ギ)フトプロジェクト」が発足しました。



ひだ木(ギ)フトによる製品

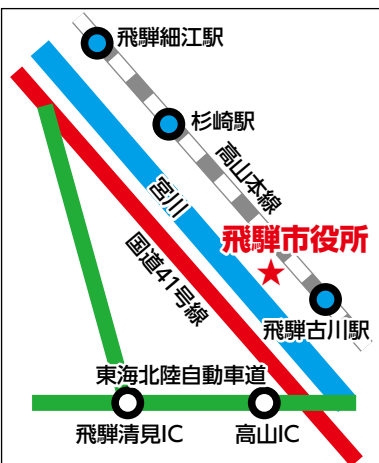
プ化され、製紙用あるいは燃料用として市外に、しかも家具等に使用される木材と比較して非常に安価で流出しています。市内には、ミズナラやブナを中心とした豊富な資源はありますが、平均胸高直径は二十六センチ程度と細く、家具などには使いづらい状況となっています。このような背景を踏まえて、飛騨市は平成二十七年に市内で伐採される広葉樹をチップなどより価値の高い木製品の商品開発や加工販売や広葉樹に関するその地域の交流拠点として、市と民間企業二



飛騨市役所応接室

このほか、市民とともに学ぶ「広葉樹のまちづくりセミナー」を開催し、広葉樹の利用価値を広く知っていただく活動も進めています。

この二つの取組は、飛騨市産の小径木広葉樹を活用した製品の開発から販売までを一貫して取り組むことにより、これまで飛騨市の広葉樹が安価に市外へ流出していた状況に歯止めをかけ、経済の循環を生み始めています。また、飛騨市役所の市長室隣にある応接室は、市内産広葉樹の木材をふんだんに使い、飛騨の自然の豊かさを感じられるよう改装がされました。直径十八〜三十センチの広葉樹を活用し椅子や机、壁面も多種類の広葉樹材を使用するなど木材利用をPRするシヨールームとなっています。



◆飛騨市役所へのアクセス
 【公共交通機関】JR高山本線古川駅下車徒歩5分
 【自動車】東海北陸自動車道 飛騨清見IC 高山IC 41号線飛騨方面へ二十分



広葉樹まちづくりセミナーの様子

各地からの花だより

中部局管内には、たくさんのお花の色とりどりの花が咲いています。ここでは、各森林管理署等で、現場へ調査等にいった際に撮影した、今が旬の花を紹介させていただきます。

また、自然保護の観点から撮影場所を掲載していない場合もありますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。



青空がよく似合う！ニッコウキスゲ(ゼンテイカ)。心も晴れやか！（飛騨署）



北信署 クリソウ



北信署 レンゲツツジ



木曽署 キンガワサツキ



富山署 トチノキ



富山署 ハクサンイチゲ



木曽署 オオヤマレンゲ



飛騨署 ササユリ



富山署 イワタバコ



東濃署 イワカガミ



木曽ふれあいセンター ギンリョウソウ

～ かわいい稚樹を発見! 「ハイ、チーズ!」～

ここ中部の森林は、多様な樹種の妖精たちに出会えることで大人気。7月のある朝、松ぼっくりの“アカ坊”がハイキングに向かったのは、ブナ類の天然林。ひんやり涼しい森の中、木漏れ日を浴びてスクスクと成長しているブナやミズナラの赤ちゃん（稚樹）たちを写真に収め、大満足で帰宅したアカ坊なのでした。

ところが…いたずらっ子の双子の弟“クロ坊”は、そんな兄の写真にこっそりいたずら描きをして楽しんでいる様子。

さあ、クロ坊が仕掛けた7つのいたずら、全部見つかるかな? (答えは次頁)



中部の森林
7つのいたずらを探せ!

かわいい写真が撮れた〜



赤松のアカ坊

く〜く〜…
うまく描けたぞ〜。
バレませんように。



黒松のクロ坊



国有林モニターのご紹介



ごとう じゅん 順
後藤 (岐阜県)

◇自己PR(趣味や特技など)

金魚飼育、特技・詩・随筆

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

年に数回、自然休養林で沐浴や散策を夫婦で楽しみます。整備された国有林は、景観的にもとても気持ちがいいものです。その半面、民有林が荒れ果てた状態で放置されている状況に寂しさを感じます。その差違は何か。

このモニターを通して、森林保全をどう守っていくべきなのか。生産品の木材価格が低迷しているのがその主な原因でしょうが、もつと木材が住宅などに利用される方法は

ないかなど、多くの意見を拝聴しながら、国民の財産である国有林の未来を考えてみたいと思いました。

◇国有林に期待すること

理由の一部にも書きましたが、この国の多くの森林は国有林です。今叫ばれている二酸化炭素排出量での地球環境の悪化は、多くの国で森林が減少している点にあります。財産としての木材の需要を増やすことも大切ですが、丸裸の山ではなく、計画的な植林や造林、林道整備など国有林が率先して実践してほしい。民有林への強い指導や助成も役割も必要です。

「美しい日本」を次の世代に残す使命を国有林は担っているのです。多くの問題を抱えながらも、国民にとって国有林は不可欠な存在なのです。



お知らせ

今月号より、令和2・3年度に中部森林管理局管内(長野県、愛知県、岐阜県、富山県)から、募集し、就任いただいた国有林モニターの方々を順次紹介させていただきます。

国有林モニターは、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般の方々を募集し、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

国有林モニターの方には、広報誌や国有林に関する資料をお送りし、国有林の役割や取組の現状といった情報をお知らせするとともに、国有林モニター会議やアンケート等を通じて、ご意見をいただきます。どうぞ、よろしくお願い致します。

国有林モニターの仕組みや活動に関する詳細は、下のQRコードを読み込んでください。



編集長だより

(中部の森林への投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

新型コロナウイルスの感染拡大によって、「お家で〇〇」と自宅等で過ごす時間が多くなりました。

中部森林管理局では、いつでも気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジタル森林紀行(愛称: デジ森)」を立ち上げました。このサイトは、①風景の色をテーマにした「中部の森林色々」②広報主任官のお勧めサイト③風景に関連する国有林サイトへのリンク一覧で構成しています。

そして、写真は、当局署等の職員が撮影したものを随時追加し、より充実させていきます。

ぜひ、「デジ森」へお気軽にお越しください。デジ森への入場ゲートは、次のQRコードを読み込んでください。



デジタル森林紀行(デジ森) 今月の広報主任官のお勧めサイト! どんなお勧めのサイトかは、以下のQRコードを読み込んでからのお楽しみ!

何かなあ

何だろう



!(^^)!

(*^-^*)

蓋のキ/子/のの中②
1-1/の難字の中③ 目の/と/半の點⑤ 母の難字(0)と/半のの中⑥
蓋の頭/と/半の點⑤ 口の難字の點⑥ ①:そ/景の6P